

Press Release(H27/4/15)

「ぎふ生物多様性情報収集ネットワーク」の活動開始

岐阜大学地域科学部 向井貴彦 准教授（代表）

応用生物科学部 楠田哲士 准教授

教育学部 古屋康則 教授, 須山知香 准教授

【ポイント】

岐阜大学の野生生物研究者の有志によって、外来種の侵入情報を集めて対策のアドバイスなどをする活動を始めました。

【概要】

さまざまな外来種がペットや産業利用、貨物への付着などによって侵入し、分布を広げていることが社会的な問題となっています。こうした外来種については、早期発見・早期対策をおこなうことが重要です。

しかし、これまで熱帯魚や外国産のカメなどを市民が野外で発見して市役所や水族館などに知らせても、特に対策が取られることは無く、証拠となる写真や標本も残されずにきました。そのため、実際にどのような外来種が野外に放され、そうした事例がどの程度の規模で起きているのかという実態が全く把握されてきませんでした。

そこで、2014年に岐阜大学COC「地域志向学プロジェクト」の支援を受けて岐阜大学の野生生物研究者の有志によるネットワークを結成し、外来種の情報を集める受け皿となるとともに、自治体などに対策方法のアドバイスをするための活動を始めました。

2015年3月にはホームページの立ち上げとチラシの配布も開始し、市民からの情報提供を受けるとともに、岐阜県や県内の市町村といった自治体、世界淡水魚園水族館アクアトトぎふ、岐阜県博物館などと連携し、総合的な外来種侵入監視のネットワークを作るとともに、適切な対策を行う手助けをしていく予定です。

今後、随時成果報告を行っていきます。

【参考URL】

ぎふ生物多様性情報収集ネットワーク <http://www1.gifu-u.ac.jp/~cbnedis/>

【近年になって岐阜県内の河川で見つかった外来魚類の例】



カラドジョウ 2011年に岐阜高校2年生（当時）の梅村啓太郎君が地域科学部の向井のところ
に写真を持ち込むことで岐阜県内への侵入が判明。在来のドジョウを減らす原因となる。



マダラロリカリア 「プレコ」と呼ばれてホームセンターなどで安価に売られている熱帯魚。
沖縄では大繁殖して問題になっている。岐阜県で定着する可能性は少ないが、2008年に岐阜市
の長良川、2010年に高山市の溜池、2011年に海津市の水路で捕獲されており、頻繁に野外に
遺棄されているものと考えられる。



ヨーロッパナマズ 2012年に大野町で捕獲された。岐阜県でも越冬可能であり、最大で3メー
トル近くなるため、定着した場合の在来生態系への悪影響が危惧される。

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学地域科学部

准教授 向井貴彦

TEL：058-293-3027（直通）

E-mail：tmukai@gifu-u.ac.jp